

## 【第82回生涯教育講座】

## インプラント治療最前線

せき ね じょう じ  
関 根 浄 治キーワード：インプラント，歯牙欠損，即時荷重，  
ガイドサージャリー，先進医療

## 要 旨

著者は1990年にインプラント治療を開始し，歯牙欠損症例のみならず口腔腫瘍切除後の患者さんのオーラルリハビリテーションにインプラントを積極的に用いてきた。インプラント手術はこの20年で大きな変化を遂げ，〈早期荷重〉と〈低侵襲手術〉が実現し，〈より安全〉に行われるようになった。

島根大学医学部附属病院では，2007年11月にインプラント義歯の先進医療の承認を得，現在インプラント手術件数は確実に増加している。

本稿では，これまでのインプラント治療を振り返るとともに，いま最も新しいインプラント治療について概説する。

## 1. はじめに

歯牙ならびに顎骨の欠損を再建することを目的に，インプラント (implant) を生体組織に代わる素材として用いる試みは決して新しいものではない。古くはAD 600～800年頃に，生体外の材料を顎骨内に埋入し機能させていたと思われる下顎骨が発見されている。その後も貝殻や鉱石，金属などが代用材料として用いられたが，長期間安定して機能するものはなかったようである<sup>1)</sup>。

現在主流となっているものの原型は20世紀初頭のプラチナ合金製インプラントである。その後，

材料の改良が進められ1939年には，Venable と Stuck<sup>2)</sup>によりバイタリウム (コバルトクロム合金) インプラントが報告された。

我が国においては，1950年代の骨膜下インプラント，ブレードタイプインプラントの時代があったが，いずれも予後は芳しくなかった<sup>3)</sup>。その後，セラミックやハイドロキシアパタイトインプラントが開発され一般臨床家に広まったが，インプラントと骨の間に軟組織の介在を疑う症例が極めて多く見られた。

一方，スウェーデンのPer-Ingvar Brånemarkは，動物に埋入した純チタンと骨が結合することを偶然発見し，1965年に osseointegration の概念と口腔領域への応用を提唱した。これが近代インプラントの幕開けである。Brånemark はこの

Joji SEKINE

島根大学医学部歯科口腔外科学講座

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1